「川崎市総合計画」第1期実施計画・中間評価結果について

「川崎市総合計画」の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P1
第1期実施計画 中間評価 施策評価シート(教育委員会事務局)・・・・・・・・・・・・・・・・ P9
(1)「生きる力」を伸ばし、人間としての在り方生き方の 軸をつくる教育の推進(順調に推移)・・・・・ P14
(2) 一人ひとりの教育的ニーズへの対応(順調に推移)・・・・・・・・P18
(3) 安全で快適な教育環境の整備(順調に推移)・・・・・・・・・・P 2 (
(4) 学校の教育力の向上 (順調に推移)・・・・・・・・・・・・・P 2 2
(5) 家庭・地域の教育力の向上(順調に推移)・・・・・・・・・・・・P 2 4
(6) 自ら学び、活動するための支援(一定の進捗がある)・・・・・・・P26

第1章

川崎市総合計画について

1 川崎市総合計画の概要

(1)計画がめざす都市像

「成長と成熟の調和による持続可能な最幸*のまち かわさき」

の実現をめざします。

子どもたちの笑顔があふれ、高齢者や障害者等、誰もが社会に貢献しながら生きがいを持つことができ、産業都市として力強く発展し続ける、そのような成長と成熟が調和し、誰もが幸せを感じられる川崎をめざし、「安心のふるさとづくり(成熟)」と「力強い産業都市づくり(成長)」の調和により、市政をバランスよく進めるために、川崎市総合計画を策定しました。

※「最幸」とは・川崎を幸せのあふれる「最も幸福なまち」にしていきたいという思い を込めて使用しています。

(2)計画の構成

「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3層構造とし、社会経済状況の変化等に柔軟に対応していきます。

また、基本構想に掲げるめざす都市像等を実現するために、中長期的な課題等を 踏まえて、「成長」と「成熟」のまちづくりに向けて、効果的な取組の考え方を明ら かにする「かわさき 10 年戦略」を設定し、戦略的にまちづくりを進めていきます。

「川崎市総合計画」の構成 [ビジョン] 総論 (中長期的な課題・ポ 基本構想(30年を展望) テンシャル・チャンス など) めざす都市像 など [方向性] 基本計画(概ね10年) かわさき10年戦略 ビジョンを達成するため の戦略を7つ設定 政策の方向性 7つの戦略の目標 [具体的 な取組〕 10年戦略に掲げられた 第1期実施計画(2年) 取組については、戦略を 7つの戦略の目標に 踏まえ、実施計画を策定 沿って、具体的な取組 政策体系別計画 の行程表を策定 (10年間) 区計画 網羅的•体系的 重点的 集中的

<図1-1 川崎市総合計画の構成>

(3)計画期間

基本計画

実施計画

※実施結果を盛り込む

「基本構想」は、今後 30 年程度を展望し、本市がめざす都市像や、まちづくりの 基本目標、5 つの基本政策を定めるものです。

「基本計画」は、今後概ね 10 年間を対象として、「基本構想」に定める 5 つの基本政策を体系的に推進するために、23 の政策及び、その方向性を明らかにするものです。

「実施計画」は、これらのビジョン・方向性に基づき、中期の具体的な取組を定めるもので、第1期実施計画の計画期間は平成 28(2016)年度から平成 29(2017)年度の2か年となります。

(政策体系) 30年程度を展望 川崎市総合計画 基本 (第1階層) 構想 議決の対象 概ね10年の長期計画 基本計画 (第2階層) 施策 (第3階層) 実施計画 4(2)年の中期計画 (政策体系別計画・区計画) 事務事業(第4階層) [「基本構想」「基本計画」「実施計画」の計画期間] 29年度 26年度 27年度 28年度 30年度 33年度 34年度 37年度 (2014)(2018)(2021) (2015)(2016)(2017)(2022)(2025)川崎市総合計画 基本構想 基本構想 30年程度を展望 川崎市総合計画 基本計画

第1期 実施計画

H26~H29

平成28年度から概ね10年

第3期 実施計画(想定)

H34~H37

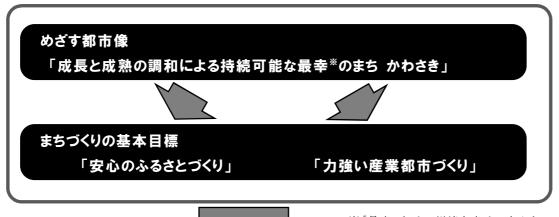
第2期 実施計画(想定)

H30~H33

<図 1-2 川崎市総合計画の政策体系と計画期間>

(4) 基本構想で掲げる「めざす都市像」及び「まちづくりの基本目標」等

<図 1-3 川崎市総合計画の基本構想と基本計画の体系>



政策体系

※「最幸」とは、川崎を幸せのあふれる「最も幸福なまち」にしていきたいという思いを込めて使用しています。

基

本

構

想

基

本

計

5つの基本政策と23の政策 1 生命を守り生き 生きと暮らすこと ができるまちづくり 2 子どもを安心して 4 活力と魅力あふ 5 誰もが生きがいを 3 市民生活を豊か 育てることのできる ふるさとづくり れる力強い都市 づくり 持てる市民自治の地域づくり にする環境づくり 1 川崎の発展を 1 参加と協働に 1 災害から生命を 1環境に配慮した できる環境を つくる より市民自治を 推進する 支える産業の 振興 守る しくみをつくる 2 新たな産業の 2 人権を尊重し 2 安全に暮らせる 2未来を担う人材 創出と革新的な 2 地域環境を守る 共に生きる社会 をつくる 利便性の向上 3 水の安定した 3 生き生きと働き 3 生涯を通じて 3 緑と水の豊かな 続けられる環境 学び成長する 環境をつくりだす 支える をつくる 4 誰もが安心して 4 臨海部を活性化 つながり・しくみ する 5 確かな暮らしを 5 魅力ある都市 支える 拠点を整備する 6 良好な都市環境 6 市民の健康を の形成を推進 する 7 総合的な交通 体系を構築する 8 スポーツ・文化 芸術を振興する 9 戦略的なシティ プロモーション ※23の政策の下に、「実施計画」に位置付ける73の「施策」と649の「事務事業」が連なります。

-4-

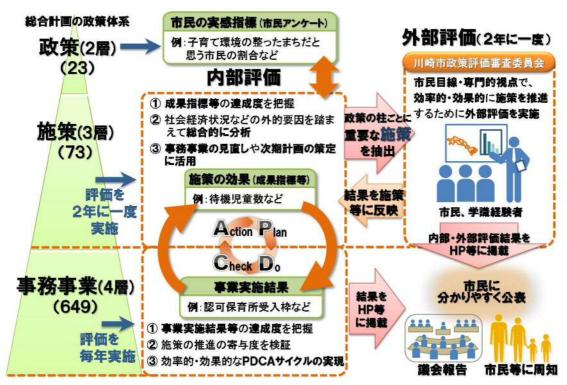
2 川崎市総合計画における進行管理・評価

少子高齢化の急速な進展により、人口減少社会を迎えようとする中、限られた財源 や人員を有効に活用し、更なる市民サービスの質的向上を図るとともに、市民満足度 を高めていくことが今まで以上に求められています。

目標とその成果をしっかりと可視化することで、課題や改善点を明確化し、PDC Aサイクルがより一層効果的に機能する進行管理のしくみをめざします。

(1)総合計画における進行管理

どのように市の取組を推進すれば、よりよい成果が得られるかなどについて、 市民の実感も踏まえて、内部・外部の視点により検証しながら、進行管理を実施 します。



<図 1-3 総合計画における進行管理の全体イメージ>

【進行管理のポイント】

- ⇒ 指標を活用した評価を実施し、総合計画における効率的・効果的な施 策の推進につなげます。

① 内部評価等

● 政策に関する効果の測定

市民の実感に基づく指標を設定し、市民目線による施策等の推進につなげます

政策体系のうち、市がめざすべきまちづくりの方向性や目的を示す「政策」 に、市民の満足度等の市民の実感に基づく指標(市民の実感指標)を設定し、 市の取組等の結果が市民満足度の向上に、どの程度反映されたかといった効果 を測ることで、市民目線での施策等の推進につなげます。

● 施策に関する評価

市の取組の効果を示す指標を設定し、適切な事務事業の見直しなどを行います

政策を実現するための方策である「施策」に、市民生活がどう変わるのかなどの視点による目標(直接目標)と、その目標に基づく市の取組の効果を表す指標を効果的に設定し、達成状況を適切に把握した上で、課題や改善点を明確化することにより、適切な事務事業等の見直しや次期計画への着実な反映を図ります。

● 事務事業に関する評価

事業の必要性や効率性などを客観的に評価することで、着実な進行管理を行います

施策を実現させるための具体的な手段である「事務事業」については、数値 目標等を中心に、事業の実施結果の達成度を把握するとともに、施策全体の推 進に寄与しているかを確認し、事業の必要性や有効性、効率性などを客観的に 評価することで、着実な進行管理を行います。

② 外部評価

市民目線・専門的視点で、効率的・効果的に施策を推進するための評価を実施します

これまでは"内部評価結果の市民への分かりやすさ"を視点とする評価を実施してきましたが、今後は、学識経験者や市民の参画により、市民目線・専門的視点で、内部評価結果の公正性、適正性、妥当性等の検証を行うとともに、より効率的・効果的に施策を推進していくための評価を実施します。

(2) 評価スケジュール

施策の評価については、市の取組とその効果との関係を中期的な視点で検証し、 効果的に次期計画や事務事業の見直しにつなげるため、概ね2年に一度実施しま す。

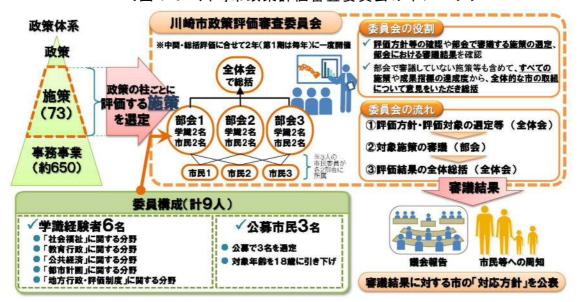
また、事務事業の評価については、着実な進行管理を行うために、毎年実施します



<図 1-4 進行管理・評価のスケジュール>

(3) 附属機関 (川崎市政策評価審査委員会) による外部評価

- 総合計画における重要な政策等の評価に関して調査審議するため、「川崎市政 策評価審査委員会」を附属機関として設置し、学識経験者の専門的視点や市民 目線による評価を実施し、より効果的に施策を推進します。
- 外部評価の対象は、委員の意見も踏まえ、政策ごとに施策を選定し、領域別に分けた部会の中で施策の説明を十分に行い、市の取組を重点的に審議します。
- 委員会で出された意見については、市の対応方針を作成・公表し、今後の取組 改善や次期実施計画に活用します。



<図 1-5 川崎市政策評価審査委員会のイメージ>

3 政策評価審査委員会の各部会における審議結果について

選定した施策について部会で審議した結果、市が行った内部評価(施策の進捗状況: A. 順調に推移、B. 一定の進捗がある、C. 進捗は遅れている、D. 進捗は大幅に遅れている)の結果については、すべて透明性、客観性及び公正さが確保されており妥当であると判断するとともに、より効果的に施策を推進するための意見を、次のとおりまとめました。

施	策	施策 2-2-1 「生きる力」を伸ばし、人間としての在り方
		生き方の軸をつくる教育の推進
施策の直接目	標	すべての子どもが社会で自立して生きていくための基礎を培う学 ☆ たっく?
		校をつくる
		「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している、どちらかといえば
	1	している」と回答した児童の割合【小 6】
		【(H26)75.9%⇒(H28 実績値)78.0%(H28 目標値:76.6%)指標達成度 a】
		「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している、どちらかといえば
	2	している」と回答した生徒の割合【中 3】
		【(H26)66.7%⇒(H28 実績値)69.3%(H28 目標値:67.6%)指標達成度 a】
	3	「授業が分かる、どちらかといえば分かる」と回答した児童の割合【小 5】
	③	【(H26)88.3%⇒(H28 実績値)89.5%(H28 目標値:89.4%)指標達成度 a】
		「授業が分かる、どちらかといえば分かる」と回答した生徒の割合【中2】
成果指標	4	【(H26)73.4%⇒(H28 実績値)76.1%(H28 目標値:74.5%)指標達成度 a】
		体力テストの結果【小5男】
	5	【(H26)99.7点⇒(H28 実績値)100点(H28 目標値:99.9点)指標達成度 a】
		体力テストの結果【小5女】
	6	【(H26)99.4点⇒(H28実績値)100.2点(H28目標値:99.8点)指標達成度a】
•		体力テストの結果【中 2 男】
	7	【(H26)92.9点⇒(H28実績値)93.1点(H28目標値:97.6点)指標達成度b】
		休日20/92.9 点 ラ (旧20 天順 旧/93.1 点 (旧20 日 信 旧・91.0 点 / 旧 信 達 成 反 日
	8	
		【(H26)94.5点⇒(H28 実績値)95.3点(H28 目標値:98.2点)指標達成度 b】
施策の進捗状	況	A. 順調に推移
内部評価結果 妥 当	見の 性	妥当と判断

付 帯 意 見

- ●キャリア在り方生き方教育や中学校給食など、様々な取組が行われているが、そうした取組の効果を現在の指標では測りきれていないため、取組を進めていく上で得られる成果を幅広く把握し、施策が目指している目標にどれだけ近づくことができたのか分かりやすく示していくことを望む。また、効果があった取組については、得られた成果と合わせて、積極的に市民にPRすることが必要である。
- ●キャリア在り方生き方教育については、学校により取組に差の生じるおそれがあり、取組がうまく進んでいる学校の事例を紹介するなど、教育委員会のサポート体制の充実を望む。
- ●子どもの体力向上には、家庭における小さい頃からの規則正しい生活習慣が大事であり、保護者への働きかけが必要となる。また、子どもたちが遊んだり、運動したりする場が重要となるため、公園でボール遊びをできるようなルール作りを行うなど、他施策と連携した取組の推進を望む。
- ●中学校給食についても、おいしいバランスの取れた食事の提供や、朝御飯をしっかりとるなど、家庭生活における規則正しい生活習慣の動機付け等、食育の視点が重要であり、同様に、他施策と連携した取組の推進を望む。

第4章

第1期実施計画 中間評価 施策評価シート

1 施策評価シート(第1期実施計画 中間評価)の見方について

「施策評価シート(第1期実施計画 中間評価)」は、施策評価のツールとして活用 しているもので、73の施策ごとに、施策の直接目標や成果指標に対して、どれだけ の成果が得られたか等について、施策所管課が作成し、配下の事務事業の所管課と調 整の上、取りまとめたものです。施策評価シートと記載内容の見方は、次のとおりと なります。

施策評価シート(第1期実施計画 中間評価)



^{※1} 指標達成度の目安[a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上~目標値未満、c. 60%以上~現状値未満、d. 59%以下] ※2 指標達成度の目安[a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値以上~目標値未満、c. 60%以上~個別設定値未満、d. 59%以下]

	事務事業コード				事業費		事業の								
ŧ		サービ	事務事業の概要	主な取組の実績	予算額	決算額 H27年度	建成度	施策への貢献	今後の事業の						
7	事務事業名	ス分類	(簡潔に記載)			1127 千及 E(決算額は見 U20年度	込み)		方向性	@ + 75 + 4k					
	10101010			● # 70 00 00 01 IZE # 100 14 15 02 02	67,197	101,303		В	I	■ ⑨事務事業の概要を ■しています。					
1	防災対策管理運営 事業	その他	地域防災計画や地震防災戦略の推進等、 市の災害対応力の向上を図ります。	業務総続計画震災対策組の表引業務継続計画震災対策編による訓練の実施(参加者約80石)	65,193	172,792	3	やや貢献 している	現状のまま継続						
	10101020		自主防災組織の育成、民間企業との連		65,699	80,325				■⑩事務事業の主な取					
2	地域防災推進事業		携、防災訓練を通じた防災意識の向上等 を通じて、共助(互助)の取組を進め、地 域防災力の向上を図ります。		62,393	58,285	3	B やや貢献 している	Ⅲ 事業規模 拡大	記載しています。					
	10101030				1,640,250	1,362,613				■ ⑪経年の事務事業 <i>の</i>					
3	防災施設整備事業	施設の管 理・運営	防災関連の施設、各種情報通信システム 等を整備し、市の災害対応力及び地域防 災力の向上を図ります。	●同報系防災行政無線の屋外受信機の増設及び戸別受信機の更新 ●備蓄計画の改定に向けた素案作成	716,892	603,653	3	A 貢献して いる	I 現状のま ま継続	度や事業費を記載し					
										ます。					
	10101040					204	204	津波対策やコンビナート災害対策などを	●津波ハザードマップの更新	6,500	4,048		В	п	
4	臨海部·津波防災対 策事業	その他	実施し、臨海部の総合的な防災力の向上 を図ります。	●臨海部広域防災訓練の実施(H29.3)	10,950	8,438	4	やや貢献 している	改善しながら継続	■ ①事務事業評価シー					
	10101050		一斉帰宅の抑制の周知や帰宅困難者対	●帰宅困難者対策用無線機、備蓄品の配備 ●リーフレット配布等による帰宅困難者対策の啓発 ●主要駅周辺における帰宅困難者対策訓練の実施(H29.11)	19,775	16,237		B やや貢献 Lている		記載した、施策への					
5	帰宅困難者対策推	その他	策用一時滞在施設の確保等を行い、災害 時における混乱を抑制するとともに、二		2,802	2,413	3		Ⅱ 改善しな がら継続	度や今後の事業の7 を記載しています。					
	進事業		次災害を防止します。	●主要駅尚辺における帰毛困難者対東訓練の美施(H29.11)				している	から継続	EIL#X0(V & 7)					
	10101060			●防災に配慮した公園施設の整備(稲田公園)	114,556	18,023		- В	В	I					
6	公園防災機能向上 事業	その他	圏において、ソーラー照明灯や避難誘導 標識などの防災関連施設を整備し、防災 機能の向上を図ります。	●ソーラー照明灯·案内版等の施設整備による帰宅困難者対策の推進	66,900	66,841	3	やや貢献 している	現状のま ま継続						
	10101070				86,711	62,524									
7	本庁舎等建替事業	その他	本庁舎等について災害対策活動の中枢 拠点としての耐震性能を確保するため、 建替えの取組を進めます。	●新本庁舎基本設計 ●環境影響評価手続の実施 ●本庁舎の解体工事	365,407	228,317	3	A 貢献して いる	I 現状のま ま継続						
	10101110				2,605,663	592,155									
8	港湾施設改修(防	施設の管 理・運営	大規模災害時における緊急物資等の輸 送機能を確保するため、耐震岸壁の整備 を進めます。	●千鳥町7号及び東扇島9号岸壁耐震改修工事の実施 ●緊急物資輸送道路の液状化対策工事の実施 ●再生エネルギー設備整備の実施	2,732,023	327,697	3	A 貢献して いる	I 現状のま ま継続						
	災・減災)事業		こないのう。	●行ユーヤルイー・欧陽生器リチル				0,0	か軽視						
_															
9															
10							K								
							l	1							

4 施策の進捗状況 区分 選択区分 進捗状況区分を選択した理由 ●配下の事務事業の取組は、ほぼ掲げた目標どおりに進捗しています。 ●実施計画に位置付けた成果指標のNo.2及びNo.3の実績値は平成28年11月に実施し た市民アンケートによるもので、市民意識は目標値を下回りましたが、内閣府が実施し た川皮ンシットーよみついり、川皮急域は自横幅と下回りました。 ハ陽州州 ※配した全国的な調査においても同様の数値は下降しており、本市の取組だけでは解決できない傾向があります。こうした情勢の中、年間を通じて実施しているぼうさい出前講座や熊 施策の A 順調に推移 進捗状況 本市長を招いた防災シンポジウムの開催など、市民の防災意識の醸成に寄与する取組 (目標達成している) B 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している) を継続的に実施しています。 (指標等の成果を ●臨海部防災対策計画の見直しが、災害事象の分析に想定以上の時間を要したことか 中心に施策を構成 B する事務事業の評 C 進捗は遅れている ら、改定時期が平成29年度当初予定より遅れることとなりましたが、耐震岸壁等の整備 (目標達成が遅れる可能性がある) <u>価等</u>から総合的に 評価) や臨海部広域防災訓練の実施、津波ハザードマップの更新など、目標に向けてソフト、 D 進捗は大幅に遅れている ハード両面での取組を推進しています。 (目標達成が難しい可能性がある) ●熊本地震等を踏まえた教訓や課題等に対する検討や見直しを行っており、受援マニー アルの策定や備蓄計画等、各種防災計画等の見直しに向けた取組や地域防災力の強 化に向けた啓発、訓練の実施など災害危機事象に備える対策を推進しています。 ●災害対策活動の中枢拠点として機能する新本庁舎の整備に向けて、基本設計や環 境影響評価手続など各業務が計画どおり順調に進捗しています。

⑬指標等の成果を中心に 施策を構成する事務事業 の評価等から総合的に評価した、施策の進捗状況 結果を記載しています。

5 今後の7	与向性		
	区 分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
今後の 事業構成の 妥当性 (手段は妥当か?)	I 効果的な事業構成である (現状のまま総練する) I 概ね効果的な構成である (一部見底に等の余地がある) II あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	II	●自然災害や危機事象が発生した際の被害や市民生活の影響を最低限に抑えるため、平常時から災害危機事象に備えた対策が必要であり、引き続き、国の動向等も踏まえた対策を進めていきます。 ●災害対策は行政のみならず、市民の意識や地域でのつながり等も大変重要であることから、地域防災力の更なる強化を目的として、市民啓発や地域での防災訓練の充実など、災害時に実効性のある取組を進めていきます。

(1)施策の成果等を見ながら、上記事業構成を確認し、次期計画等に向けて、事業の見直し等を行う必要があるか確認し、それらを踏まえた今後の方向性を記載しています。

<施策の進捗状況区分>

記号	進捗状況区分	該 当 例
A	順調に推移 (目標達成している)	・施策に設定した成果指標の多くが目標値に達して おり、配下の事務事業が順調に推移している施策
В	一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している)	・施策に設定した多くの指標が計画策定時の現状値 から目標値に向かって進捗しており、配下の事務 事業が概ね順調に推移している施策
С	進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)	・施策に設定した成果指標のうち、計画策定時の現 状値を下回る指標が多い施策や、配下の事務事業 のうち複数の事業が遅れている施策
D	進捗は大幅に遅れている (目標達成が難しい可能性がある)	・施策に設定した成果指標のうち、計画策定時の現 状値を大幅に下回る指標が多い施策や、配下の事 務事業のうち複数の事業が大幅に遅れている施策

<「事務事業」の達成状況区分>

記号	達成状況の区分	該 当 例
1	目標を大きく上回った	・目標に明記した期日よりも相当早く達成し、そのことによりコスト面や市民サービスに大きく貢献した。 ・目標に明記した内容よりも相当高い水準であった。 ・目標に明記した数値を大きく上回った。
2	目標を上回った	・目標に明記した期日よりも早めに達成し、そのことによりコスト面や市民サービスに貢献した。 ・目標に明記した期日どおり達成し、明記した内容よりも高い水準であった。 ・目標に明記した数値を上回った。
3	目標をほぼ達成した	・目標に明記した期日、内容どおりに達成した。 ・途中で多少の遅れはあったものの、最終期限には間に合う形で、目標に明記した内容どおりに達成した。 ・目標に明記した数値とほぼ同じであった。 ・おおむね適正に処理し業務遂行に支障がなかった。
4	目標を下回った	・目標に明記した内容は達成したが、期日が遅れた。 ・目標に明記した期日どおりであったが、明記した内容に満たない水準であった。 ・目標に明記した数値を下回った。 ・所定の期日に間に合わないなど、業務を適正に処理できなかった。
5	目標を大きく下回った	・目標に明記した期日よりも遅れ、明記した内容に満たない水準であった。 ・目標に明記した数値を大きく下回った。

「川崎市総合計画」第1期実施計画に基づく73ある施策のうち、教育委員会事務局が 所管する6つの施策評価シートを、次のページから掲載しています。

1 施策の概	援要								
	基本政策(1層)	子どもを安心して育てることのできるふるさとづくり							
政策体系上	政策(2層)	未来を担う人材を育成する	計画当初値 (H27年)	直近実績値 (H28年度)	最終目標値 (H37年)				
の位置づけ	市民	「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した児童の割合 【小6】	85.1%	83.1%	90.0%				
	実感指標 ②	「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した生徒の割合 【中3】	69.7%	67.9%	75.0%				
施策	施策コード	施策名							
(3層)	20201000	「生きる力」を伸ばし、人間としての在り方生き方の軸をつくる	教育の推進	İ					
担当	組織コード	所 属 名							
12 3	881900	教育委員会事務局学校教育部指導課							
		·務部教育改革推進担当、教育委員会事務局総務部人権・共生教育担当、教育委 ·学校給食推進室、教育委員会事務局川崎市総合教育センター	員会事務局等	学校教育部健	康教育課、				
施策の概要	自尊感情や規範意識 ●義務教育9年間の 涯にわたる学びや暮 にするなど、学ぶ意欲 ●読書活動や音楽活	こ対する夢や希望を持ち、社会的自立に必要な能力や態度を育てていく教育がす 、学ぶ意欲、人と関わる力等を発達段階に応じて計画的に育む「キャリア在り方生 内容は、本来すべての子どもたちが身につけなくてはならないものです。また、学らしのための基礎となる力でもあります。子どもたちの「生きる力」を伸ばしていくたなや態度を育むことを大切にしながら、「確かな学力」を育みます。 動等を通じた「豊かな心」の育成や、身体を動かす楽しさを実感させる休み時間中の導入など、「すこやかな心身」の育成に取り組みます。	Eき方教育」を 習指導要領の こめ、一人ひと	進めます。 めざす「生きる りの「分かる事	る力」は、生民感」を大切				
直接目標	すべての子と	ざもが社会で自立して生きていくための基礎を培う学校をつく	る						

		実施計画に位置付けた指標名(指標の説明)	現状値(年度)	目標·実績	H28年度		H29年度	単位
		「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している、どちらかと	75.0	目標値@	76.6		77	0/
		いえばしている」と回答した児童の割合【小6】	75.9	実績値し	78			%
	1	指標の 全国学力・学習状況調査の市立校の全小中学生の対象学年の児童	H26	達成率(b/a)	101.8%)	_	7
		説明 生徒の平均値	П20	指標達成度 ※1	a		-	増減
		「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している、どちらかと	66.7	目標値@	67.6		68	%
	2	いえばしている」と回答した生徒の割合【中3】	00.7	実績値⑥	69.3			
		指標の全国学力・学習状況調査の市立校の全小中学生の対象学年の児童	H26	達成率(b/a)	102.5%		_	1
		説明生徒の平均値		指標達成度 ※1	<u>a</u>		-	増減
		「授業が分かる、どちらかといえば分かる」と回答した	88.3	目標値@	89.4		90	%
	3	児童の割合【小5】		実績値し	89.5			_
		指標の 川崎市学習状況調査の市立校の対象学年全児童の平均値(小学校5 説明 年生:国語・算数・理科・社会、各教科の平均)	H26	達成率(⑥/⑧)	100.1%)		7
				指標達成度 ※1	a			増減
		「授業が分かる、どちらかといえば分かる」と回答した 生徒の割合【中2】	73.4	目標値② 実績値⑥	74.5		75	
	4			美棋 (b) / (a))	76.1 102.1%			1
或 果		指標の 川崎市学習状況調査(H26)の市立校の対象学年全生徒の平均値(中 説明 学校2年生:国語・数学・社会・理科・英語、各教科の平均)	H26	指標達成度 ※1	102.170 a)		増減
指				目標値②	a 99.9		100	
漂		体力テストの結果【小5男】	99.7	実績値⑥	100		100	点
	5	指標の 小5男 川崎市(52.34点)/神奈川県(52.49点)×100		達成率(b/a)	100.1%			17
		※神奈川県の平均値(体力合計点)を100とした際の本市の割合。体力合計点は、 説明 種目ごとの測定値を点数化(10点満点)し、その合計点を平均したもの。	H26	指標達成度 ※1	а	_		増減
ľ		##=== add======	00.4	目標値②	99.8		100	
	•	体力テストの結果【小5女】	99.4	実績値⑥	100.2			一点
	6	指標の 小5女 川崎市(52.13点)/神奈川県(52.47点)×100	H26	達成率(b/a)	100.4%		_	7
		※神奈川県の平均値(体力合計点)を100とした際の本市の割合。体力合計点は、 種目ごとの測定値を点数化(10点満点)し、その合計点を平均したもの。	HZ0	指標達成度 ※1	a		-	増減
		 体力テストの結果【中2男】	92.9	目標値@	97.6		100	点
	7		32.3	実績値⑥	93.1			,m
	,	拍標の 指標の ※神奈川県の平均値(体力合計点)を100とした際の本市の割合。体力合計点は、	H26	達成率(b/a)	95.4%			1
		説明 ※神宗川県の平均恒(体力日前 点)を100とした際の本川の割ら。体力日前 点は、種目ごとの測定値を点数化(10点満点)し、その合計点を平均したもの。	1120	指標達成度 ※1	b		_	増減
		休力テストの結果【中2女】	94.5	目標値②	98.2		100	点
	8		0 1.0	実績値し	95.3			
		指標の 中2女 川崎市(43.64点)/神奈川県(46.18点)×100 ※神奈川県の平均値(体力合計点)を100とした際の本市の割合。体力合計点は、説明 ※特別では、100・10・10・10・10・10・10・10・10・10・10・10・10・	H26	達成率()()(a)	97.0%		_	17
		性日ことの測定値を点数化(10点滴点)し、ての言訂点を平均したもの。		指標達成度 ※1	<u>b</u>		-	増減
		その他数値で把握できる補足指標 (指標の説明)		実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
	1	1-1 m		実績				
	'	指標の 説明		大視				
ŀ								1
	2	指標の		実績			1	1

その他 定性的な成果

(取組を進めたこと で発現した効果など について記載)

●キャリア在り方生き方教育に関する取組が新聞に取り上げられたことで、問い合わせや他の報道機関からの取材申し込みが増え、結果とし て市民や保護者への啓発が図られました。

指標等の 成果分析

●2016年度からの「キャリア在り方生き方教育」への全校での取組が始まったことは一定の成果であり、要請訪問等の研修の増加からも教職 員の事業への理解は進んだと考えます

●授業が「分かる」と回答した児童生徒の割合は、数値目標を達成しています。学習状況に応じたきめ細やかな指導を充実させる取組や、問 題解決的な学習、言語活動を中心とした学習等による、子どもたちの思考力・判断力・表現力等の育成を目指した取組の成果が表れてきてい ると捉えています

を含めて記載)

(指標の目標値達成) ●体力テストの結果は、数値目標に中学生が到達していないものの、中2女子は過去4年間で最高値を示し、中2男子も平成27年度の数値 を阻む<u>外的要因等</u>は下回ったものの、過去4年間で2番目の記録を示しており、経年でみると緩やかな上昇傾向にあります。児童生徒の1週間の体育・授業以外 での運動時間数では、中学生、特に女子の運動する子としない子の2極化が顕著に現れており、目標値達成のためには、都市部で運動する 場が不足する環境の中、休み時間等に気軽に運動に親しむことができる環境の充実や体カテストの結果を踏まえた体育授業の充実を図って いく必要があります。

※1 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上~目標値未満、c. 目標達成率60%以上~現状値未満、d. 目標達成率60%未満】 ※2 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上~目標値未満、c. 目標達成率60%以上~個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

3	施策を構成す	る主	<u>な</u> 事務事業の評価						
	事務事業コード				事業費 予算額		事業の 達成度	Her late .	A#4.0
番号		サービ ス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績		決算額 H27年度	是队员	施策への貢献	今後の 事業の
7	事務事業名	ヘル 類	(間)糸(〜記載)			(※決算額は H29年度	見込)	度	方向性
	20201010		将来の社会的自立に必要な能力や態度を 育てていく教育を平成28年度から全校で	●「手引き」を活用した各字校の実践の支援	9,569	6,899			
1	キャリア在り方生き方	その他	実践するため、手引きの配布や研修により、「キャリア在り方生き方教育」について	●29年度用キャリア在り方生き方ノートの作成・配布・活用 ●研究推進校小学校2校、中学校1校の情報交換会3回の実施 と研究推進校報告会	6,673	4,237	3	A 貢献して いる	Ⅱ 改善しな がら継続
	教育推進事業		の理解を深めるとともに、指導体制の構築 や、家庭との連携を図ります。	●保護者・教員用リーフレット及び実践事例集の作成と配布 ●教員研修の実施(のべ65回実施)	5,349			いる	がら神生初に
	20201020		学力の状況を的確に把握するために、調	●市学習状況調査・市学習診断テストの実施及び結果の個票	55,070	51,735			
2	学力調査・授業改善研	その他	査・研究を行い、その結果を活用して、子 どもたちが「分かる」を実感できる授業づく	配布 ●全国学力・学習状況調査の結果に基づく、各学校における結果報告書の作成・数値目標の設定等による授業改善の推進	47,607	45,311	3	B やや貢献 している	I 現状のま ま継続
	究事業		りを推進します。 	●学習指導要領実践事例集の作成と配布	48,096				S- HE-HUL
	20201030		習熟の程度に応じた、きめ細やかな指導	●きめ細やかな指導・学び研究推進校の指定による研究の推進3年間(H26~H28)の研究の総括	95,461	91,155			_
3	きめ細やかな指導推	その他	の充実のために、より有効な指導形態や 指導方法について研究実践を進めます。 また、少人数学級・少人数指導等を推進し	●少人数学級・少人数指導等の推進 ●課題別学習や習熟の程度に応じた学習などの少人数指導の 実施	95,084	90,356	3	A 貢献して いる	II 改善しな がら継続
	進事業		ます。	●学級あたり35人を超える小学校2年生以上の学校における、 少人数学級の実施	101,156			,	70 3411496
	20201040		外国人と直接コミュニケーションを図る機	●ALTの配置(74名) ●英語教育推進リーダー中央研修の実施による、他の教員を指	307,546	307,532			
4	44 == 10 -4 10 10 10 A	その他	会を増やし、異文化を受容する態度を育 成するため、小・中・高等学校・外国語指 導助手(ALT)を配置します。また、教員研 終の企事を別はます。	● 英語教育推進リーダー中英研修の美麗による、他の教員を指導する立場の教員の育成(養成数:5名) ● 英語教育推進リーダーによる、小学校外国語(英語)教育中	307,546	307,532	3	A 貢献して	Ⅲ 事業規模
	英語教育推進事業			核教員研修、中・高等学校外国語(英語)教育指導力向上研修 の実施(小学校6回、中学校6回、高等学校5回、各14時間程度)	336,624			いる	拡大
	20201050		企業や研究機関、大学と連携して、技術	 ●理科支援員を全小学校に配置 ●横浜国立大学と連携した中核理科教員(CST)養成プログラ	17,897	17,324			
5		その他	者、研究者の派遣授業などを実施するとと もに、理科支援員の配置や中核理科教員 (CST)の養成などにより、観察・実験の機	ムの実施(CST認定数:4名) ●市内小・中学校でのCST実習生の受入(3校)	17,870	17,209	3		
	理科教育推進事業 		会を充実することで、魅力ある理科教育を推進します。	●CST修了者による3回の教員研修の実施 ●先端科学技術者の派遣授業の実施(派遣授業実施校数:11 校)	17,367			している	ま継続
	20201060		新しい環境での学習や生活へ移行する段	●全中学校区(川崎高校附属中学校を除く)で「連携教育推進協議会」を開き、小中連携教育の計画・実施・ふりかえり	3,666	3,654			
6	小中連携教育推進事	その他		3,666	3,767	3	B やや貢献 している	I 現状のま ま継続	
	業		的な教育の実施と、小学校から中学校へ の接続の円滑化を図ります。 ●小中連携教育担当者会議の開催や、実践報告集の作成 布による有効な取組の共有		3,658			している	よ継続
	20201070		子どもから大人までが読書に親しめるよ	●総括学校司書の配置(21名)	28,435	28,437			
7	読書のまち・かわさき	その他	う、さまざまな読書活動を推進するため、学校司書等の配置を含めた読書環境の整	●学校司書のモデル配置の検証及び検証結果に基づく学校図	31,625	31,600	3		I 現状のま ま継続
	推進事業		備を推進します。	を推進します。 ●川崎フロンターレ等との連携による読書活動の推進				いる	よ利性的に
	20201080		子どもが音楽に親しみ、豊かな感性を育	●ミューザ川崎シンフォニーホールで「子どものためのオーケス	20,923	20,854			
8	子どもの音楽活動推	イベント 等	めるよう、本格的なオーケストラ鑑賞や、 市内の貴重な音楽資源を活用した音楽の	トラ鑑賞」を実施(体験人数:8,211人) ●「子どもの音楽の祭典」の実施 ●昭和音楽大学及び洗足学園音楽大学と連携し、育成のため	20,894	20,738	3	B やや貢献 している	Ⅲ 事業規模 拡大
	進事業		体験活動を推進します。	の専門的な指導を実施(実施校数:17校)	24,019				ш
	20201090		子どもたちの人権感覚や、人権意識の向	●人権尊重教育推進会議の開催を通じた情報交換 ●人権研修の実施及び研究校への研究支援(研修参加者2,437	6,510	6,239		В	I
9	人権尊重教育推進事	その他		●人権尊重教育補助教材・子どもの権利学習資料を作成、配布	6,573	5,938	3		リリス
	業		ます。	●子どもが暴力や権利侵害から自分を守る方法を身につける参加型学習への講師派遣(講師派遣数:345人)	6,590				
	20201100		子どもたちの異文化理解と相互尊重をめ	●民族文化の紹介や指導等をおこなう外国人市民等を講師とし	973	977		В	I
10	多文化共生教育推進	その他	ざした学習を推進します。また、多文化共 生と多様性を尊重した意識と態度の育成 を推進します。	て派遣(156人)) ●外国人教育推進連絡会議を通じた情報交換 ●各学校の多文化共生教育の充実に向けた情報交換	973	958	3		1 現状のま ま継続
	事業		で推進します。	▼古ナなの多人に大土祭目の尤夫に同じだ情報文授	1,027		ļ.,		
	20201110		 児童生徒の健全な心身の育成をめざし、	●中学校総合体育大会、市立小学校地区別運動会、小学校陸上記録会の実施	77,316	70,180		В	ı
11	子どもの体力向上推	その他	地域スポーツ人材を活用しながら学校体育活動を充実します。	域スポーツ人材を活用しながら学校体 ロジェクト」の実施	75,365	69,436	3		現状のま ま継続
	進事業			●武道等指導者の派遣(派遣数:90人・56校) ●部活動指導者の派遣(派遣数:105人・47校)	85,023				

	20201120		すこやかな学校生活を送るため、健康診	●喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育等の健康教育の推進 ●児童生徒のアレルギー疾患への適切な対応の推進	501,571	490,574		В	ī
12	健康教育推進事業	その他	断や健康管理の実施、学校医等の配置を 行います。また、望ましい生活習慣の確立、心の健康保持、喫煙・飲酒・薬物乱用	●学校保健安全法施行規則の改正に伴う定期健康診断の実施 方法の検討・実施	496,175	489,255	3	B やや貢献: している	現状のまま継続
	姓 康敦月推延争未		防止等、健康教育の充実を図ります。	●スクールヘルスリーダー派遣による若手の養護教諭等の支援 (派遣校数:4校)	500,484			0 00	S-14E-19E
	20201130			●平成29年1月から自校方式2校、小中合築校方式2校で中学 校完全給食を開始	3,207,242	3,313,937			
13	中学校給食推進事業	その他	中学校完全給食の全校実施に向けた取 組を進めます。また、中学校完全給食を活 用した食育推進の取組を進めます。	●平成29年9月に南部、同年12月に中部・北部学校給食センターの運営開始に向けた整備推進	846,887	818,566	3	A 貢献して いる	」 現状のま ま継続
	中子 仪和 及推延争来		AND COMPANY OF THE PROPERTY OF	●「学校における食に関する指導プラン<中学校>」の改訂などの食育推進の取組	2,007,597				OVINEASE
	20201140		旧产业社の時人か自身の改造に次十7よ	●食の指導に関する全体計画、年間指導計画に基づく食育の # **	1,754,323	1,696,657			,
14	学校給食運営事業	その他	児童生徒の健全な身体の発達に資するために小学校等において、安全で安心な学 校給食の提供を効率的に行います。		1,779,312	1,699,496	3	B やや貢献: している	ュ 現状のま ま継続
	于仪和 及连吕李未		●学校給食調理業務の委託化の推進	1,888,423				04/42/95	
	20201150		「教育の情報化推進計画」に基づき、ICT 機器整備や研修の充実を図り、児童生徒	●川崎市立学校における教育の情報化推進計画(第2期教育の情報化推進計画)の策定 ●教員のICT活用実践力育成のための研修の推進 ●小・中・高・特別支援学校のICT機器等の導入及び入替	1,413,193	1,393,713			I 現状のま ま継続
15	教育の情報化推進事	その他	の情報活用能力の育成、教員の指導力の 向上、学校業務の効率化による教員の子		1,703,646	1,668,672	3		
	業	どもとふれあう時間の確保に取り組みます。 ◆校務支援システムの検証及び安定的な運用		1,705,541				04/42/95	
	20201160		「市立高等学校改革推進計画」に基づく取	●商業高校の再編に伴う施設整備や周知活動の支援●聴講生制度、図書館の開放、開放講座の実施(開放講座実施	60,927	69,484			ī
16	魅力ある高校教育の	その他	組を進めるとともに、生徒・保護者・市民の ニーズに応じた、魅力ある高校づくりを推	● 歌語生和度、図香館の開放、開放語座の美施(開放語座美施 数:8回) ● 定時制生徒の将来の自立に向けた、学習や就職等の相談・	68,633	62,495	3	B やや貢献 している	
	推進事業		進します。	支援モデル事業の実施(川崎高校定時制課程)	40,258				0 · 1 m 170
	20201170		川崎京抗みが附属市学校にセンチで年	●高い志を持って主体的に学び、国際社会で活躍するための資質を身につけた生徒の育成	2,525	1,694		В	Ţ
17	17 中高一貫教育推進事	その他	川崎高校及び附属中学校において、6年間の体系的・継続的な、特色ある教育を推進します。		2,206	1,595	3		
	*			●附属中学校入学者の募集及び決定事務の適正な実施	2,530			2	

4 施策の過	進捗状況		
	区分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
施策の 進捗状況 (指標等の成果を中 心に施策を構成す る事務事業の評価 等から総合的に評 価)	A. 順調に推移 (目標達成している) B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している) C. 進捗は遅れている の. 進捗は大幅に遅れている (目標達成が難しい可能性がある)	A	 ●配下の事務事業の取組は、掲げた目標どおりに進捗しています。 ●キャリア在り方生き方教育の全市での実施は目標通りに達成していますが、児童生徒のドキャリア形成のためには各学校における取組の改善と継続が必要であり、今後も実情に応じた学校支援や研修を継続して事業を推進します。 ●きめ細やかな指導推進事業については、成果指標である授業が「分かる」と回答した児童の割合が数値目標に達成していることや、習熟の程度に応じたきめ細やかな指導の実施校が増加していることから順調に推移していると考えます。 ●英語教育推進事業については、ALTの効果的な活用について事例を作成し周知を進めました。また、英語教育推進リーダーを活用した研修は、受講者が意欲的に参加し、指導力と英語力の向上につながっています。 ●理科教育推進事業については、中核理科教員(CST)を計画的に認定し、CSTによる研修を計画通り実施できています。 ●全ての中校区において、小・中学校間の連携は深まりつつあり、9年間を通した学校教育を行うことにより、子どもたちにとってより効果的な学びを実践することができました。 ●終括学校司書や学校司書の適正配置を進めることで児童生徒の読書活動の充実に繋がっています。 ●大きもたが音楽のすばらしさや楽しきを味わうことで豊かな心の育成につながっています。 ●大権尊重教育の実施校からの取組に対するアンケートの結果や児童生徒の感想から、子どもたちが音楽のすばらしさや楽しきを味わうことで豊かな心の育成につなができます。 ●女化共生教育の実施校からの取組に対するアンケートの結果や児童生徒の感想を確認すると、体験を通した活動から、多文化共生についての理解の高まりについて有効であったと判断することができます。 ●女化共生教育の実施校からの取組に対するアンケートの結果や児童生徒の感想を確認すると、体験を通した活動から、多文化共生についての理解の高まりについて有効であったと判断することができます。 ●女の実施校からの取組に対するアンケートの結果や児童生徒の感想を確認すると、体験を通した活動から、多文化共生についての理解の高まりについて有効であったと判断することができます。 ●を作り、体験を通した活動から、多文化共生についての理解の高まりについて有効であったと判断することができます。 ●を作り、体験できまがよりによりないます。 ●を作り、大学できまがよりによりないます。 ●を作りから、自転するといいます。 ●を作りから、自転がよりによりないます。 ●を作りから、自転がよりによりないます。 ●を注めるがまりによりないます。 ●を注しました。 ●を注しました。 ●に提案を通じて子どもため情報活用能力の育成が図られています。 ●を推進しました。 ●を注める教育を推進するために、中学を高校の教育を表しています。 ●を注しまり、中学を記述されていますがよります。 ●を注がまりますがよりますがよりますがまずがよりますがよりますがよりますがよりますがよりますがよりますがよりますがよります

5 今後の方	5向性		
	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
今後の 事業構成の 妥当性 (<u>手段は妥当か?</u>)	I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直等の余地がある) II. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	I	 ●キャリア教育については次期学習指導要領にもその視点が盛り込まれていることから、現在の取組を継続して進めていきます。 ●学力調査・授業改善研究事業については、施策の資料等として効果的であり、今後も継続するとともに、必要に応じて項目等の見直しを進めていきます。 ●きめ細やかな指導推進事業については、掲げた目標どおりに進捗していることから継続した取組が必要ですが、一人ひとりの多様な学習状況に応じた効果的な学びを進めるためには事業の工夫が必要です。 ●ALTについては英語教育改革に対応しながら適正配置を進めていきます。また、教員研修については、教員の授業力向上の観点から、研修内容の一層の改善に取り組の主す。 ●理科教育推進事業については、CSTの養成や実習生の受入れについては順調に進捗しており、継続して取り組みます。また、教員の授業力向上に、さらにCSTを活用していきます。 ●理科教育推進事業については、CSTの養成や実習生の受入れについては順調に進捗しており、継続して取り組みます。また、教員の授業力向上に、さらにCSTを活用していきます。 ●別き継続・卒業等に伴って毎年、児童生徒が入れ替わる中、小中接続に関する課題を連携校間において共有し、協働してその解決に努めつづけることが必要です。加えて、教育課程の多様化・複雑化や学習指導要領の改訂等により、カリキュラムマネジメントの在り方も検討する必要があるため、引き続き事業を推進していきます。 ●引き続き、総括学校司書や学校司書の適正配置に取り組みます。 ●引き続き、総括学校司書や学校司書の適正配置に取り組みます。 ●引き続き、別場崎市立中学校完含と表別によっていることから、現在取り組んでいる事業を継続して進めてまいります。 ●引き続き、「川崎市立中学校完合るようにオーケストの数値が概ね上昇傾向を示していることから、現在取り組んでいる事業を継続して進めてまいります。 ●引き続き、「川崎市立中学校完全とのでは、体カテストの数値が概ね上昇傾向を示していることがら現るでは、中学を発生実施に向け、事業を推進していきます。 ●付設型中高一貫校の課題である高校でなりりを進めます。 ●供設型中高一貫校の課題である高校でなりを進めます。 ●併設型中高一貫校の課題である高校への接続を円滑にするために、中学・高校の教員の連携をさらに深め、学びの連続性を維持し、6年間の特色ある中高一貫教育を推進していきます。 ●併設型中高一貫教育を推進していきます。 ●併設型中高一貫校の課題である高校のの実施であります。 ●併設型中高一貫教育を推進していきます。 ●併設型中高一貫教育を推進していきます。 ●供設型中高一貫校の課題である高校でなりを推進して、地への課題である高校でなりを推進して、地への課題である高校でなります。 ●供設型中高一貫校の課題である高学校の再編に向けた取りますます。 ●はいまりにはいまれています。 ●はいまりにはいまれています。 ●はいまりにはいまれています。 ●はいまりにはいまれています。 ●はいまりにはいますがはいまする。 ●はいまりにはいますがはいますがはいまれていますがありまする。 ●はいまりにはいますがはいますがはいますがはいますがはいますがはいますがはいますがはいますが

1 施策の概	援要							
	基本政策(1層)	子どもを安心して育てることのできるふるさとづくり						
政策体系上	政策(2層)	未来を担う人材を育成する	計画当初値 (H27年)	直近実績値 (H28年度)	最終目標値 (H37年)			
の位置づけ	市民	「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した児童の割合 【小6】	85.1%	83.1%	90.0%			
	実感指標②	「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した生徒の割合【中3】	69.7%	67.9%	75.0%			
施策	施策コード	施策名						
(3層)	20202000	一人ひとりの教育的ニーズへの対応						
担当	組織コード	所属名						
1E 3	881900	教育委員会事務局学校教育部指導課						
関係課	教育委員会事務局総	務部学事課、教育委員会事務局総務部教育改革推進担当、教育委員会事務局	引川崎市総合教	育センター				
施策の概要	 施策の概要 ●本市では、特別支援学校や特別支援学級に在籍する障害のある児童生徒が増加傾向にあるとともに、通常の学級においても、発達障害のほか、いじめや不登校、経済的に困難な家庭環境など、さまざまな支援を必要とする子どもが増加している現状があります。 ●そのような状況の中、すべての子どもが生き生きと個性を発揮しながら成長できるよう、一人ひとりの教育的ニーズに応じて、適切な相談・指導・支援を実施します。 							
直接目標	支援が必要な	⊋児童生徒の学習環境を向上させる						

		実施計画に位置付けた指標名 (指標の説明)	現状値(年度)	目標·実績	H28年度	:	H29年度	単位
		支援の必要な児童の課題改善率	81.8	目標値@	86		88	%
	1	又接の必要な児童の味趣以音楽	01.0	実績値⑥	91.3			90
	'	指標の 課題が解消・改善した児童数(5,524人)/全小学校が把握した支援が	H26	達成率(b/a)	106.2%)	_	
		説明 必要な児童数(6,757人)×100(%)	HZU	指標達成度 ※1	a		-	増洞
		1,000人あたりの暴力行為発生件数(中学校)	8.29	目標値@	8.25		8.22	件
	2	1,000人的70人的70人,	0.23	実績値®	6.88			''
	_	指標の 暴力行為発生件数(239件)/全生徒数(28.816人) × 1.000	H26	達成率(@/b)	119.9%)	_	7
		説明 説明	1120	指標達成度 ※1	a		_	増洞
		いじめの解消率【小学校】	65.8	目標値@	75.3		80	 %
	3		00.0	実績値⑥	78.7			
戓		指標の 解消した件数(小:407件、中:154件) /認知件数(小:619件、中:	H26	達成率(b/a)	104.5%)		
果		説明 185件)× 100(%)	1120	指標達成度 ※1	a		_	増源
旨		いじめの解消率【中学校】	83.2	目標値②	87.7		90	%
漂	4		00.2	実績値し	86.4			
	1	指標の 解消した件数(小:407件、中:154件) /認知件数(小:619件、中:	I H26 I	達成率(b/a)	98.5%		_	1
		説明 185件)× 100(%)		指標達成度 ※1	b		_	増源
		不登校児童生徒の出現率【小学校】	0.38	目標値@	0.33		0.3	
	5		0.00	実績値し	0.41			%
		指標の 不登校児童生徒数(小:271人、中:1,003人)/全児童生徒数(小:	H26	達成率(@/b)	80.5%		_	
		説明 71,436人、中:28,816人) × 100(%)	1.20	指標達成度 ※1	С		_	増源
		不登校児童生徒の出現率【中学校】	3.48	目標値@	3.42		3.39	 %
	6		0.40	実績値⑥	3.34			
		指標の 不登校児童生徒数(小:271人、中:1,003人)/全児童生徒数(小:71,436人、中:28,816人) × 100(%)	H26	達成率(@/⑥)	102.4%			7
		説明 ※「指標達成度b」の個別設定値:3.83%(過去の平均値)		指標達成度 ※2	a			維持
		その他数値で把握できる補足指標(指標の説明)		実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
		支援の必要な児童への支援未実施率				0.40		1
	1	指標の 支援が必要と認知されながらも支援に着手できていない児童数/支援 説明 童数 × 100(%)	髪が必要な児	実績	0.62	0.48		%
	2	指標の説明		実績				

定性的な成果

(取組を進めたことで発現した効果など について記載)

指標等の

を含めて記載)

●支援の必要な児童の課題改善率は、一人ひとりの教育的ニーズに対応するため、専任化された児童支援コーディネーターが核となり校内支

成果分析
(指標の目標値達成
を阻む外的要因等
た会外で記載)

またものようでは、一人いとりの教育的――人に対応するにの、専仕化されたに乗来振っ一ティネーターがなどなったという
と関む外的要因等
た会外で記載)

またられて記載

・ 不登校として認識されて計上されたことで数値が上昇した可能性があります。

※1 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上~目標値未満、c. 目標達成率60%以上~現状値未満、d. 目標達成率60%未満】 ※2 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上~目標値未満、c. 目標達成率60%以上~個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

					古田井	/ 工 田\			
	事務事業コード				事業費 予算額	決算額	事業の 達成度	施策へ	 今後0
番		サービ	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績	了异识	人子母 H27年度		の貢献	事業の
号	事務事業名	ス分類	間楽に記載)		H28年度	(※決算額は H29年度	見込)		方向!
	20202010		小学校における児童支援コーディネーター 専任化により、ニーズに応じた支援体制を	●児童支援コーディネーターを務める教員の専任化の推進(小学校79校)	102,489	90,251			
1	児童支援コーディネー ター専任化事業	その他	構築し、外部機関や幼稚園・保育園との連携、中学校への引継ぎ、若手教員の育成など、小学校段階における早期の適切な	●児里又振コーティネーターのスキルアックと情報共有を目的とした養成研修と児童支援活動推進会議の実施(研修:6回、会議:5回)	131,891	130,470	3	A 貢献して いる	Ⅲ 事業規 拡大
			支援と教育を実施します。	■コーディネーターを中心とした、適切な支援と教育の推進体制 の構築	212,785				
	20202020		共生社会の形成をめざした支援教育の推	●特別支援教育サポーターの配置(20,887回) ●ハ・中学校通級指導教室の課題への対応の検討 ● 原報: 対象に表する (20,887回)	488,661	441,142			,
2	特別支援教育推進事	その他	進や、教育的ニーズに応じた多様な学び の場の整備、小・中・高等学校における支 援体制の構築、教職員の専門性の向上等	●長期入院児童生徒への学習支援の実施●医療的ケアを必要とする児童生徒への支援(看護師の派遣: 週2回)	560,993	502,217	3	A 貢献して いる	I 現状の ま継続
	業		を図ります。	●専門性を高めるための研修の実施(必修研修:24回、希望研修:13回)	498,523				
	20202030	豆がな人間関係で自むしかりたこれよう		●年間6時間のプログラムの実施	10,051	9,739		В	ı
3	共生・共育推進事業	その他	共育プログラム」を実践し、いじめ・不登校 の未然防止を図るとともに、効果測定を活 用して子どもへの理解を深め、児童生徒	●年2回の共生・共育担当者研修会(4月・8月)や校内研修を通した指導者育成の推進 ●研究協力校17校の効果検証等の調査研究	4,775	4,499	3	やや貢献 している	
	X X N ILLE T X		指導の充実を図ります。	●研え協力牧口牧の対未検証寺の調査研え	4,749				
	20202040	20202040 スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等を配置し、子どもたちの豊		●中学生死亡事件再発防止策の検討結果に基づく取組の推進 ●スクールソーシャルワーカーの継続配置及び効果的な活用に	192,198	188,908		В	ı
4	児童生徒指導·相談事	その他	な心を育むためにその活用を促進するとと	よる支援の充実(8名) ●市立全中学校へのスクールカウンセラーの配置	192,583	192,874	3	やや貢献 している	現状(
	*		もに、関係機関との連携により児童生徒の 抱える課題の解決を支援します。	●市立小学校、高等学校、特別支援学校への学校巡回カウン セラー7名の派遣(高等学校へ週1回程度派遣、小学校46校に 派遣)	192,169				ま継続
	20202050		不登校の児童生徒の居場所として適応指	●市内6か所での適応指導教室の運営による、不登校等の子ど	78,498	79,373		1	
5	適応指導教室事業	その他	導教室を運営し、小集団による体験活動・ 学習活動のほか、きめ細やかな相談活動 を通して、状況の改善を図り、学校や社会	もたちの学校や社会への復帰に向けた取組の推進 ●メンタルフレンド(ボランティア学生)の募集及び配置による、	79,020	77,765	3	B やや貢献 している	I 現状の ま継
	旭心旧等教主于未		への復帰につながるように取り組みます。						ま継続
	20202060		学校と関係機関が連携して、日本語が不 自由な児童生徒等の相談・就学体制づくり	●海外帰国・外国人児童生徒に対する教育相談の実施(221件)●日本語指導等協力者の派遣による、初期の日本語指導及び	54,320	49,589		A	ı
6	海外帰国•外国人児童	その他	を進めます。また、日本語指導等協力者 (学習支援員)を派遣するとともに、特別の 教育課程による日本語指導体制づくりを	中学3年生への学習支援の充実 ●帰国·外国人児童生徒教育担当者研修会の実施(2回)	54,283	53,745	3	貢献して いる	現状のま継
	生徒相談事業		進めます。	●国際教室(日本語教室)設置校12校における特別の教育課程 を実施	54,026				
	20202070		経済的理由のため就学が困難な児童生	●全保護者への申請書の配布及び申請意思の確認、所得照会 を行うことによる、援助を必要とする対象者への確実な援助費の	677,659	725,980		A	п
7	就学援助•就学事務	その他	徒に対し、必要な援助金を支給します。また、法令に基づき、就学事務を適正に行います。	支給の継続 ●学齢簿のオンライン化(就学事務システムの稼動)による就学	744,128	747,783	3	う 貢献して いる	
			6.70	事務の円滑な実施	816,771				
	20202080		経済的理由のため修学が困難な高校生に		61,727	59,674			_
8		補助・助 成金	対し、奨学金を支給します。また、経済的 理由のため修学が困難な大学生に対し、	●高等学校奨学金の支給による支援●大学奨学金の貸付・検討	62,132	70,184	3	A 貢献して いる	I 現状(ま継
	奨学金認定・支給事務		奨学金を貸与します。		73.443			1 0	5-7E

4 施策の進	4 施策の進捗状況								
	区分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由						
進捗状況 (指標等の成果を中 心に施策を構成す る事務事業の評価 等から総合的に評	A. 順間に推移 (目標達成している) B. 一定の進捗がある (目標達成し向けて進捗している) C. 進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある) D. 進捗は大幅に遅れている (目標達成が難しい可能性がある)	A	●配下の事務事業の取組は、掲げた目標どおりに進捗しています。 ●児童支援コーディネーターを計画通り79校で専任化し、校内支援体制の構築を促進したことなどにより、支援の必要な児童の課題改善率が大幅に目標を上回っています。 ●小学校の不登校児童出現率については、児童支援コーディネーターの専任化が進んだことにより、今まで病欠として計上されていた児童も丁寧な見取りが可能となったことで、早期に不登校の可能性を把握して計上した結果、数値が上昇した可能性があります。その場合、今後適切な支援が実施されることで、数値が改善されると思われます。 ●日本語指導が必要な児童生徒が増加する中、学校や関係機関とも連携した相談・就学体制づくりを進めることができました。						

5 今後の方			
	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
今後の 事業構成の 妥当性 (<u>手段は妥当か?</u>)	I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) I. 概ね効果的な構成である (中の余地がある) II. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	Ι	●児童支援コーディネーターの専任化による教育的ニーズのある児童の支援の充実については効果が現れています。今後は専任化されていない学校においても同様の支援環境を整える必要があります。 ●特別支援学級及び特別支援学校の在籍者数は増加傾向にあり、その教育的ニーズも多様化しています。このような多様な教育的ニーズに応えるために、特別支援教育の推進を着実に進めます。 ●「かわさき共生*共育プログラム」について、より効果的に実施されるためには、各学校の実情やニーズに応じた継続支援が必要です。今後も、効果的な支援の手法や内容について検討していきます。 ●スクールカウンセラー・学校巡回カウンセラー・スクールソーシャルワーカーによる相談活動については、不登校やいじめの問題だけではなく、子どもたちの豊かな心を育むためにその活用を促進し、専門性を生かした適切な相談活動を行うためにも、現状の体制を維持する必要があると考えています。 ●日本語指導が必要な児童生徒の増加が見込まれるため、学校や関係機関とも連携した相談・就学体制づくりを進めます。また、今後も協力者(学習支援員)を派遣するとともに、特別の教育課程による日本語指導体制づくりを進めます。

1 施策の概	光要							
	基本政策(1層)	子どもを安心して育てることのできるふるさとづくり						
政策体系上	政策(2層)	未来を担う人材を育成する	未来を担う人材を育成する # 計画当初値 (H27年) (H27年)					
の位置づけ	中氏 "	「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した児童の割合 【小6】	85.1%	83.1%	90.0%			
	実感指標②	「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した生徒の割合 【中3】	69.7%	67.9%	75.0%			
施策	施策コード	施策名	•					
(3層)	(3層) 20203000 安全で快適な教育環境の整備							
担当	組織コード 所属名							
	880600	教育委員会事務局教育環境整備推進室						
関係課	教育委員会事務局総	務部企画課、教育委員会事務局学校教育部健康教育課						
施策の概要	ド・リーダーや地域交などに取り組む防災4 ●学校施設は、全体経費が必要けるれるで 病、トイレの快適実施 毎月上をあわせて選手施 ●将来的な児童生徒	もたちの安全を確保するために、安全教育と安全管理の両面からの取組通安全員を配置し、地域におけるさまざまな危険から子どもたちを守る取教育研究推進校を中心として各学校の防災力の向上を図るとともに、子とのおよそ7割が築年数20年以上を経過し、老朽化が進んでいます。老杯ことから、当面は改修(学校施設の再生整備と予防保全)を基本として対けパリアリー化などの教育環境の改善、自然採光を取り入れるなどの環することによって、限られた財源を有効に活用し、学校施設の長寿命化や数の減少に備えて、校舎等の規模を最適化するための検討を進めるととや、校舎の増築、小学校の新設等を計画的に行います。	双組を推進します。また どもたちの防災意識を う化した学校施設を建て 策を進めます。外壁や 境対策、停電時の電源 が教育環境の向上を早	、地域と連携しいます。 「替えるために 屋上防水などのででなどのである。」 「ないます。」 「ないます。」 「ないます」 「ないます」	した防災訓練 は、多額の の老朽化対 壁難所機能の 。			
直接目標	安全で快適に	に過ごせる学習環境を整える						

			標やその他成果な ト画に位置付けた指標名		現状値(年度)	目標·実績	H28年度		H29年度	単位
				120000		目標値@	28		27	
		児童生	徒の登下校中の事故件	数	29	実績値し	28		<u> </u>	件
	1	指標の「		D各下校時における事故報告の合	H22~	達成率(@/b))	100.0%		_	7
			計(直近5年間の平均値)	> 1	H26 の平均	指標達成度 ※1	а		_	増減
		キャル	・計算ながあれままがた。	ちゃた単体体型の割合		目標値②	26.4		28.7	%
	2	老朽化対策及び質的改善が行われた学校		の化学性を	24.1	実績値し	26.4			90
成	2	指標の	「築年数20年以下(H25時点)の学校	施設数(40施設)+老朽化対策及	H27	達成率(b/a)	100.0%		_	7
果		説明	び質的改善済の学校施設(2施設)」/	/全学校施設(174施設)	П21	指標達成度 ※1	а		-	増減
指						目標値@				
票	3					実績値b				
	0	指標の				達成率(b/a)				
		説明				指標達成度 ※1				
						目標値@				
	4				実績値し					
		指標の				達成率(b/a)				
		説明				指標達成度 ※1				
			他数値で把握できる補足	2指標(指標の説明)		実績	H27年度	H28年	度 H29年度	単位
			レの環境整備校数			中体	0.0	00		校
	1		トイレの床がウェット式の学校を対象 し、トイレの環境改善を図った学校数		化等を実施	実績	86	93		12
			のエレベータ設置校数	`						
	2	指標の	**************************************	× 5+=1.52+1 + 14+1+1		実績	107 1			校
		説明	学校のバリアフリー化を目的として、 	エレヘータを設直した子校剱						
の発	性的 組をi 現しが	か他 は成果 進めたこと た効果など て記載)								
, 指標	戎果 『の [!等の !分析 目標値達成 的要因等	~	んだことにより、学校施設の老	朽化対策及	なび質的改善につ	ついて計画どおり	け行うことが	できました。	

※1 指標達成度の目安(a. 目標値以上(100%以上)、b. 規状値以上~目標値未満、c. 目標達成率60%以上~規状値未満、d. 目標達成率60%未満】 ※2 指標達成度の目安(a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上~目標値未満、c. 目標達成率60%以上~個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

3	施策を構成す	る主	<u>にな</u> 事務事業の評価							
	事務事業コード					(千円)	事業の			
番	7 22 7 ∓⊼→ 1	サービ	事務事業の概要	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	予算額	決算額	達成度	//E34C *	今後の事業の	
号	事務事業名	ス分類	(簡潔に記載)	主な取組の実績	H27年度 H28年度(※決算額は見込		目认)			
	710771				1120-12	H29年度	·) L / L /			
	20203010		スクールガード・リーダーや地域交通安全	●学校を巡回し、通学路の危険箇所のチェックや防犯対策を行	202,493	196,111				
1		その他		ラスクールガード・リーダーの継続配置(20名) ●通学路安全対策会議での議論を踏まえた危険箇所の改善の	202.547	193.773	3	B やや貢献	I 現状のま	
'	学校安全推進事業	Con	進します。また、防災教育研究推進校の指 定や学校防災担当者の研修により、防災	推進 ●学校防災教育推進校による先導的な研究を推進や、各学校	202,547	133,773		している	ま継続	
			教育を推進します。	の実態に応じた防災教育の推進(推進校:累計全179校)	214,773					
	20203020		既存学校施設の改修等の再生整備手法		141,907	110,862				
2	学校施設長期保全計	施設の管 理・運営	により、より多くの学校の教育環境改善を 図るとともに、老朽化対策、質的改善、環	●学校施設の長寿命化・再生整備の推進(校舎の工事:14校、 体育館の工事:16校)	10,599,105	8,353,006	3	A 貢献して	Ⅲ 事業規模	
	子校爬設及粉床主引 画推進事業	压. 连呂	境対策による長寿命化を推進します。また、計画的に予防保全を実施します。	神月昭の工事: 10枚/	1 010 500			いる	拡大	
			THE THE STATE OF THE COURSE OF THE STATE OF		1,213,566		ļ	-		
	20203030		教育環境の向上をめざし、トイレの快適化 やバリアフリー化、エコスクール化を進め	■学校トイレの環境整備の推進(93校、297か所完了)	1,705,884	1,401,230		A	ı	
3	学校施設環境改善事	施設の管 理・運営	ます。また、地域の防災力の向上のため	●既存校のエレベータ設置の推進(121校完了) ●緑のカーテン設置の推進(101校、128か所完了)	1,760,993	1,537,115	3	貢献して	現状のま	
	*		に、非構造部材の耐震化など、学校施設 の防災機能の向上を図ります。	●体育館の灯油式自家発電機の設置の推進(91校完了)	508,230			いる	ま継続	
	20203040					3.235.998				
	20203040	体記の等	学校施設・設備の保守・点検や維持管理、	●学校施設・設備の修繕及び営繕 ●消防設備の改修		· · ·		В	I	
4	学校施設維持管理事		補修などを計画的に実施します。	●建築設備の保守点検	3,058,381	3,155,003	3	やや貢献 している	現状のま ま継続	
	業			●校舎(トイレ、窓ガラス等)の定期清掃	3,465,574					
	20203050		児童生徒の増加に的確に対応するため、 ・	4.440.802	7,348,318		1			
_		施設の管名	児里生徒の増加に的値に対応するため、 続き学校の児童生徒数の将来推計値に基 ●久	管 各学校の児童生徒数の将来推計値に基 ^{(統} ●久末小校舎:	続 ■久末小校舎増築・久末小体育館改築工事・完成			3	A 素材して	田 H I
5	児童生徒増加対策事	理·運営	設置、通学区域の見直し等の対応策を検	◆校舎増築工事(6校)◆指定変更可能地域を設定する等の急増緩和策を実施(4小学	5,180,196	4,877,784	_ 3	貢献して いる	現状のまま継続	
	業		討し、良好な教育環境の維持に努めます。	校区)	3,557,716					
6										
							ļ	-		
7										
							\swarrow			
8										
								Ì		
9		1					r			
J										
							<u> </u>			
10]		

4 施策の進	基 拨状况		
14.44.a	区分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
進捗状況 (<u>指標等の成果を中</u> <u>心に施策を構成す</u>	A. 順間に推移 (目標達成している) B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している) C. 進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある) D. 進捗は大幅に遅れている (目標達成が難しい可能性がある)		●配下の事務事業の取組は、掲げた目標どおりに進捗しています。 ●学校施設の老朽化対策や質的改善を図るとともに、児童生徒の増加に対応する等、良好な教育環境の維持に取り組んでいます。 ●学校へのエレベーターの設置については、目標を上回って設置しており、教育環境の向上につなげることができました。

5 今後の7	5 今後の方向性									
	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」							
今後の 事業構成の 妥当性 (<u>手段は妥当か?</u>)	I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	I	●老朽化した学校施設が多くあること及び児童生徒が一部の地域で増加していく傾向があることなど、課題が引き続き存在することから、取組を継続していく必要があります。							

1 施策の概	发 要							
	基本政策(1層)	子どもを安心して育てることのできるふるさとづくり						
政策体系上	政策(2層)	未来を担う人材を育成する	直近実績値 (H28年度)	最終目標値 (H37年)				
の位置づけ	市民	「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した児童の割合 【小6】	85.1%	83.1%	90.0%			
	実感指標 ②	「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した生徒の割合 【中3】	69.7%	67.9%	75.0%			
施策	施策コード	施策名						
(3層)	20204000	学校の教育力の向上						
担当	組織コード	所 属 名						
担当	880100	教育委員会事務局総務部教育改革推進担当						
		員部教職員課、教育委員会事務局職員部県費教職員移管準備担当、教育委員 教育センター	会事務局学校	教育部指導認	果、教育委員			
施策の概要	会事務局川崎市総合教育センター ●地域に開かれた信頼される学校となるためには、学校の情報を地域と共有し、その運営に多くの地域住民が参加するとともに、子どもたちが地域の行事等に積極的に関わるなど、双方向の交流が大切です。そのため、保護者・地域住民が一体となって学校運営に取り組む、コミュニティ・スクールの成果を他の学校に汲及させることなどにより、学校・家庭・地域が連携して、よりよい教育の実現をある。							
直接目標	教職員の資質	質を高め、保護者や地域と連携して、よりよい学習活動(授業	美等)を実現	見する				

2	成	実指標やその他成果などの状況と成果の	D分析					
		実施計画に位置付けた指標名 (指標の説明)	現状値(年度)	目標・実績	H28年度		H29年度	単位
		「家で、自分で計画を立てて勉強をしている、どちらかと	58.4	目標値@	58.8		59	%
	1	いえばしている」と回答した児童の割合【小6】	30.4	実績値し	59.4			7 %
	'	指標の全国学力・学習状況調査の市立校の対象学年全児童の平均値	H26	達成率(b/a)	101.0%		-	7
		説明 ※「指標達成度b」の個別設定値:55.7%(過去の平均値)	1120	指標達成度 ※2	a		-	
		「家で、自分で計画を立てて勉強をしている、どちらかと	45	目標値@	45.3		45.5	%
	2	いえばしている」と回答した生徒の割合【中3】	40	実績値⑥	46.5			70
		指標の全国学力・学習状況調査の市立校の対象学年全生徒の平均値	H26	達成率(b/a)	102.6%		-	1
		説明 ※「指標達成度b」の個別設定値:42.8%(現状値の95%)	1120	指標達成度 ※2	a		-	維持
		「今住んでいる地域の行事に参加している、どちらかと	53.6	目標値@	54.5		55	%
	3	いえばしている」と回答した児童の割合【小6】	33.0	実績値し	55.3			
成		指標の 全国学力・学習状況調査の市立校の対象学年全児童の平均値	H26	達成率(b/a)	101.5%		_	7
果		説明 説明 三国子グ・子自仏派調査の同立校の対象子中主先星の平均値	1120	指標達成度 ※1	a		_	増減
指		「今住んでいる地域の行事に参加している、どちらかと	31.2	目標値②	31.7		32	%
標	4	いえばしている」と回答した生徒の割合【中3】	01.2	実績値し	35.1			<u> </u>
	1	指標の 全国学力・学習状況調査の市立校の対象学年全生徒の平均値	H26	達成率(b/a)	110.7%		_	1
		説明 ※「指標達成度b」の個別設定値:29.7%(現状値の95%)	1120	指標達成度 ※2	a		_	
		「学校生活が楽しい、どちらかといえば楽しい」と回答し	93.3	目標値②	93.3		93.3	%
	5	た児童の割合【小5】	30.0	実績値し	93.5			
		指標の 川崎市学習状況調査の市立校の対象学年全児童の平均値	H26	達成率(b/a)	100.2%		_	7
		説明 ※「指標達成度b」の個別設定値:92%(過去の平均値)		指標達成度 ※2	a		_	維持
		「学校生活が楽しい、どちらかといえば楽しい」と回答し	89.9	目標値②	90		90	%
	6	た生徒の割合【中2】	00.0	実績値⑥	90.2			
		指標の川崎市学習状況調査の市立校の対象学年全生徒の平均値	H26	達成率(b/a)	100.2%		-	7
		説明 ※「指標達成度b」の個別設定値:88.6%(過去の平均値)		指標達成度 ※2	a		-	維持
		その他数値で把握できる補足指標(指標の説明)		実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位
	1	the law of		実績				
	'	指標の 説明		天根				
		nh h					L	——

その他 定性的な成果 (取組を進めたこと で発現した効果など について記載)

指標等の

を含めて記載)

指標等の成果分析(指標の目標値達成
● 受教教育推進会議や学校運営協議会等をとおして学校の情報を地域と共有し、学校運営に多くの地域住民の参加を得るなど、双方向の交

を阻む<u>外的要因等</u> 流を大切にすることで、地域の行事等に参加している児童生徒の割合の増加につながっていると考えます。

※1 指標達成度の目安(a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上~目標値未満、c. 目標達成率60%以上~現状値未満、d. 目標達成率60%未満】 ※2 指標達成度の目安(a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上~目標値未満、c. 目標達成率60%以上~個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

	施策を構成す				事業費	(手田)	***				
_	事務事業コード				予算額	決算額	事業の 達成度	施策へ	 今後の		
番号	事務事業名	サービス分類	事務事業の概要 (簡潔に記載)	主な取組の実績		H27年度 (※決算額は H29年度	:見込)	の貢献度	事業の方向性		
	20204010		学校・家庭・地域社会が一体となって学校 運営に取り組む学校運営協議会(コミュニ	●家庭や地域に開かれた信頼される学校づくり、地域の創意工 夫を活かした特色ある学校づくりをめざした学区運営の推進	16,695	15,477					
1	地域等による学校運営への参加促進事業	その他	ティ・スクール)を各区に指定し、その取組 成果を他の学校に波及させることなどによ	●学校運営協議会の運営支援による、学校・家庭・地域社会が 一体となって取り組む先導的な学校運営の実践(10校)	6,309	5,652	3	B やや貢献 している	I 現状のま ま継続		
	当への参加促進手来		よい教育の実現をめざします。	ム等の開催による、先導的な実践成果の普及・啓発	3,639						
	20204020		各区に配置した区・教育担当を中心に、区	●区における教育支援の推進 ・学校運営全般に対する支援	9,433	9,272			,		
2	区における教育支援	その他	役所と連携しながら、学校と地域との連携 強化や学校へのきめ細やかな支援を推進		9,309	9,013	3	A 貢献して いる	I 現状のま ま継続		
	推進事業		します。	●「区・学校支援センター」による学校支援協力者の登録・学校 への紹介等の取組の推進	9,263			. (10	ま 神生物に		
	20204030			●「夢教育21推進事業」等を活用した特色ある学校づくりの推進	165,733	160,148					
3	地域に開かれた特色	その他	づくりを進めます。また、学校の取組を自	●保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域 の連携協力による学校づくりの推進	157,228	150,362	3	B やや貢献 している			
	ある学校づくり推進事 業		主的・自律的に改善するためのしくみとして学校評価を推進します。	●学校教育ボランティア活動の推進(ボランティアコーディネーター配置数:141校)	156,104				ま継続		
	20204040		子どもたちとともに学び続ける教員である		22,854	18,498					
4	14 -14 14 - 	その他	ために、ライフステージに応じた教職員研修を推進します。特に、学校全体の教育カ	●教職員の資質、指導力の向上をめざした研修の実施(初任者 研修等13講座110回実施、希望研修45講座135回実施) ●教職をめざす人のための「輝け☆明日の先生の会」の実施	21,634	21,075	3				
	教職員研修事業		向上をめざして、若手教員の資質向上とミ ドルリーダー育成の充実を図ります。	(講話13回、ゼミ5回を実施)	23,702			している	ま継続		
	20204050			●学級編制基準·教職員定数の決定権限の移譲後の学校教	0	0					
5		その他	その他	その他	や給与負担等の事務・権限移譲につい	育・学校運営体制の在り方の決定 ●人事・服務・給与・勤務条件等の制度について、条例規則等 の改正	6,295	6,803	3	A 貢献して	VI 事業終了
	県費教職員移管業務		進め、学校教育の充実を図ります。	●人事給与システム、職員情報システム、旅費管理システム及び健康管理システムの改修	5,231		1005 3 貝献して 事	尹未於」			
	20204060		**	●地方(九州会場)での採用試験の実施	16,048	15,337					
6	教職員の選考・任免業	その他	るとともに、試験方法や試験対象等につい	◆特別選考試験の実施◆大学推薦制度の実施◆大学及び各地での説明会等の広報活動の実施	15,566	13,935	3		I 現状のま		
	務		ふれた優秀な人材の確保を図ります。	●次年度に向けた人物重視の採用選考のための試験内容等の 検討	12,135			している	ま継続		
7											
8								-			
9											
10											

4 施策の過	進捗状況		
14-44-	区分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
進捗状況 (指標等の成果を中 心に施策を構成す る事務事業の評価 等から総合的に評	A. 順關に推移 (目標達成している) B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している) C. 進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある) D. 進捗は大幅に遅れている (目標達成が難しい可能性がある)	Α	●配下の事務事業の取組は、掲げた目標どおりに進捗しています。 ●成果指標すべてにおいて目標値に達していることからも、各事業を着実に推進したことにより、順調に成果を挙げていると評価しています。 ●児童生徒、教員、保護者、地域住民それぞれの意識改革が進むとともに、学校・家庭・地域の連携・協力が確実に強化されていると評価しています。

	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
妥当性 (<u>手段は妥当か?</u>)	I. 効果的な事業構成である (現状効果的な構成である (正. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	I	●引き続き教員の資質・指導力の向上を図り、学校・家庭・地域が連携することで、よりよい教育の実現をめざしていきます。 ●成果指標について既にH29年度の目標を達成していますが、入学・進学・卒業による児童生徒の入れ替わりにより、年度によって結果(数値)の変動が見込まれるため、継続して目標が達成できるよう、引き続き事業を継続していきます。 ●県費教職員移管業務については、平成29年度に学級編制基準や給与負担等の事務・権限移譲が実施されるため、事業を終了します。

1 施策の概	发 要									
	基本政策(1層)	子どもを安心して育てることのできるふるさとづくり								
政策体系上	政策(2層)	生涯を通じて学び成長する	計画当初値 (H27年)	直近実績値 (H28年度)	最終目標値 (H37年)					
の位置づけ	中氏 🖺	「1年間に生涯学習をしたことがある」と回答した市民の割合	25.2%	22.3%	30.0%					
	実感指標②	「自分の知識や技術を地域や社会に活かしたいと思う」と回答した市民の割合	50.8%	51.2%	55.0%					
施策	施策コード	施策名								
(3層)	20301000	家庭・地域の教育力の向上	≧・地域の教育力の向上							
担当	組織コード	所属名								
- E - I	882100	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習推進課								
関係課										
	たしています。多くの 弱まり、教育や子育で ●このような中で、市 など、仕事をや行の父親 ●中学校区関係づくり の見える関係づくり ●本市には、さきざまります。このような市	育ては、子どもが基本的な生活習慣や生活能力、人に対する信頼感、豊かな情態家庭が家庭教育に力を注いでいる一方で、家庭環境の複雑化や地域社会の変化でいての悩みや不安を多くの家庭が抱えています。 民館などにおける家庭・地域教育学級、PTAによる家庭教育学級に加えて、企業視や母親のほか、これまで各種事業を受講できなかった人が学べる機会を提供しま単位で活動している地域教育会議では、青少年の健全育成に取り組む団体や、地地域の教育課題の解決に取り組みます。 な経験や知識、社会貢献の意欲を持つシニア世代をはじめとする地域の幅広い民が主体となって、子どもたちの学習や体験をサポートする「地域の寺子屋事業」で、子どもたちの学習や体験をサポートする「地域の寺子屋事業」でよりを進めます。	により、親子(等と連携して! ます。 地域住民、教! 世代の市民と! を推進すること	か育ちを支える 家庭教育事業 職員などが一 いう、素晴らし により、地域	る人間関係が を展開する 体となって、 い財産があ の多様な大					
直接目標	大人と子ども	など、地域での多世代の交流を増やすとともに、家庭教育 σ	D悩みを軽	減する						

		実施計	画に位置付けた指標名	(指標の説明)	現状値(年度)	目標·実績	H28年度		ŀ	H29年度	単位
		親や教	員以外の地域の大人と知	り合うことができた割	87.6	目標値@	89.2			90	%
		合			07.0	実績値し	88.6				70
	'		テ子屋において「親や先生以外の大 をの数(444人)/寺子屋の学習支援		H26	達成率(b/a)	99.3%			_	7
			8の数(444人)/ サナ座の子百叉援? 6数(507人)	参加名にあいるアングーFの回告	П20	指標達成度 ※1	b			-	増減
		家庭教	育事業を通じて悩みや不	安が解消・軽減した割	91.4	目標値@	91.7			92	%
	2	合			31. 4	実績値⑥	92.4				
成	2	拍標の 1	R庭教育事業において「悩みや不安が解消 、)/事業参加者におけるアンケートの回答		H27	達成率(b/a)	100.8%	ó		_	7
果指			27.4-H27.12までの集計 ※「指標達成度b		П21	指標達成度 ※2	а			-	維持
指						目標値@					
標	3					実績値⑥					
	J	指標の				達成率(b/a)					
		説明				指標達成度 ※1					
						目標値@					
	4					実績値⑥					
	7	指標の				達成率(b/a)					
		説明				指標達成度 ※1					
		その	他数値で把握できる補足	指標(指標の説明)		実績	H27年度	H28年	度	H29年度	単位
		泳力向上	:プロジェクトの参加者数								
	1		5内のスイミングスクールと連携して 対室の参加者数	実施する、泳げない子どもを対象と	とした水泳	実績	1,886	2,81	4		\ \ \
		寺子屋先	:生の養成人数								
	2	指標の 説明	宇子屋先生養成講座の開催により、	養成した寺子屋先生の人数		実績	77	121			人

定性的な成果 (取組を進めたこと で発現した効果など

について記載)

●寺子屋事業については、子どもや保護者の感想、寺子屋先生への聞き取りから、子ども達と寺子屋先生が、地域で会った時にも挨拶しあえるような関係が生まれていることが分かり、子ども達と地域の大人との関係が育まれています。

指標等の

を含めて記載)

- 成果分析 (指標の目標値達成 人と話せた」という設問の内容に対して、寺子屋先生や寺子屋スタッフ以外の大人と受け止める子どもがいるのではないかと分析しています。
- を阻む<u>外的要因等</u> ●「家庭教育事業を通じて悩みや不安が解消・軽減した割合」については、目標値に達しており、成果を達成したものと考えます。

※1 指標達成度の目安【a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上~目標値未満、c. 目標達成率60%以上~現状値未満、d. 目標達成率60%未満】 ※2 指標達成度の目安【a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上~目標値未満、c. 目標達成率60%以上~個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

3	施策を構成す	る <u>主</u>	<u>な</u> 事務事業の評価						
番	事務事業コード	サービ			事業費 予算額	(千円) 決算額	事業の 達成度		今後の
号	事務事業名	ス分類	(簡潔に記載)	主な取組の実績	H28年度	H27年度 (※決算額は H29年度	.見込)	の貢献 度	事業の 方向性
	20301010				2,689	2,629			
1	家庭教育支援事業	参加・協 働の場	子育で期の市民を地域全体で支え合う家 庭教育環境を構築します。	●PTAによる家庭教育学級開催の支援(163校で実施) ●全市と各区で「家庭教育推進連絡会」を開催(1回実施) ●企業等との連携による家庭教育事業の実施(2回実施)	2,756	2,330	3	A 貢献して いる	I 現状のま ま継続
					2,897				
	20301020		市民の意欲・力を、社会全体の活力や地	●7行政区と51中学校区に設置された地域教育会議の活動を推 進	22,965	22,806		١.	
2	地域における教育活	参加・協 働の場	域の教育力の向上につなげられるよう支援します。また、「子どもの権利に関する条例」に基づき、地域における子どもの育ち	●川崎巾子とも会議と合行政区・中子校区子とも会議との連携	26,715	26,139	3	A 貢献して いる	I 現状のま ま継続
	動の推進事業		や意見表明を促進します。	促進 ●子どもの泳力向上プロジェクトの実施(14か所)	28,788				よ利性的に
	20301030			●地域の寺子屋の拡充(27年度17か所⇒28年度30か所)	19,511	13,416			
3		参加・協 働の場	地域ぐるみで子どもの学習や体験活動を サポートし、多世代で学ぶ生涯学習の拠	●寺子屋力・ボーター養成講座の開催(年4回) ●寺子屋コーディネーター養成講座の開催(各区で開催)	34,914	23,882	3	A 貢献して	I 現状のま
	地域の寺子屋事業	1.0.11	点づくりを進めます。	●地域の寺子屋推進フォーラムの実施	48,815			いる	ま継続
4									
5									
5									
6									
		-							
7									
8									
9									
10									

4 施策の過	美掺状況		
11-11-	区分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由
性物状況 (指標等の成果を中 心に施策を構成す る事務事業の評価 等から総合的に評	A. 順調に推移 (目標達成している) B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している) C. 進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある) D. 進捗は大幅に遅れている (目標達成が難しい可能性がある)		●配下の事務事業の取組は、掲げた目標どおりに進捗しています。 ●各事業を通じて、地域全体で子育て家庭や子ども達の育ちを支える環境を醸成し、地域 での多世代の交流を促進しました。

5 今後の7	方向性		
	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
今後の 事業構成の 妥当性 (<u>手段は妥当か?</u>)	I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) II. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) III. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	I	●家庭や子ども達を取り巻く環境の変化が激しい社会において、家庭が子育てにおいて抱える悩みや、学校や地域における課題は多様化しており、引き続き各事業を確実に推進していくことで、大人と子どもなど、地域での多世代の交流を増やし、家庭教育の悩みを軽減していく必要があります。

1 施策の概	要				
	基本政策(1層)	子どもを安心して育てることのできるふるさとづくり			
政策体系上	政策(2層)	生涯を通じて学び成長する	計画当初値 (H27年)	直近実績値 (H28年度)	最終目標値 (H37年)
の位置づけ	ן עווי ן ן	「1年間に生涯学習をしたことがある」と回答した市民の割合	25.2%	22.3%	30.0%
	実感指標 ②	「自分の知識や技術を地域や社会に活かしたいと思う」と回答した市民の割合	50.8%	51.2%	55.0%
施策	施策コード	施策名			
(3層)	20302000	自ら学び、活動するための支援			
担当	組織コード	所属名			
15 3	882100	教育委員会事務局生涯学習部生涯学習推進課			
関係課					
施策の概要	ゆる「知縁」による新た ●市民の主体的な学	★、大学等と連携しながら、市民が自ら学び、学んだ成果を地域づくりや市民活動 こな絆や、コミュニティを創造するとともに、地域を支える活動や市民主体の学習を びを支援するため、子どもたちの教育活動に支障のない時間は校庭や体育館を 民館や図書館など、市民が自ら学ぶ拠点となる社会教育施設におけるサービスの	担う人材を育開放するなど、	成します。 学校施設の	有効活用を
直接目標					

		実施計画に位置付けた指標名 (指標の説明)	現状値(年度)	目標·実績	H28年度		H29年度	単位	
		教育文化会館・市民館・分館の社会教育振興事業参加	8.9	目標値②	9		9	万人	
	1	者数	0.9	実績値⑥	8.9				
	'	指標の 各年度における事業参加者数	H26	達成率(b/a)	98.9%		_		
		説明	1120	指標達成度 ※1	b		_	増源	
		│ │教育文化会館・市民館・分館施設利用率	56.6	目標値@	56.8		56.9		
	_		00.0	実績値⑥	56.7			%	
	2	利用実績のある部屋数(89,031コマ)/利用可能部屋数(157,128コマ)※各施設の 指標の 貸出部屋は、部屋ごとに1日3区分(午前・午後・夜間)に分けた利用が可能であり。		達成率(b/a)	99.8%		-	1	
		説明 それを3部屋とカウントする。(各年度) ※「指標達成度b」の個別設定値:55.1%(過去の平均値)	H26	指標達成度 ※2	b		_		
艮		市立図書館・分館における図書館の入館者数	433.7	目標値@	434.6		435		
1	3	江呂書館・万郎における呂書郎の入路名数	433.7	実績値⑥	409.4			│ 万人	
	3	指標の 各施設(菅閲覧所を除く)の入り口に設置しているBDS(無断持出防	H26	達成率(b/a)	94.2%		_	7	
		説明 止装置)による入館者数	HZU	指標達成度 ※1	С		-	増派	
		学校施設開放の利用者数	260.9	目標値②	261		261	一万人	
	4			実績値⑥	267.2				
	7	指標の 別教室の利用者数の合計)	H26	達成率(b/a)	102.4%		_	1	
		説明 ※「指標達成度b」の個別設定値:247.9万人(現状値の95%)	1120	指標達成度 ※2	a				
		社会教育振興事業を通じて新たなつながりが増えた割	67.5	目標値②	68.3		69		
	5	合	07.5	実績値⑥	70.4			%	
	Ŭ	指標の 者の数(257人)/事業参加者におけるアンケートの回答者数(381人)※	H27	達成率(b/a)	103.1%		-	1	
		説明 新規アンケートのため、H27.4~H27.12までの集計	1	指標達成度 ※1	a			増減	
_		その他数値で把握できる補足指標(指標の説明)		実績	H27年度	H28年度	H29年度	単位	
	1	指標の説明		実績					
	2	指標の説明		実績					

で発現した効果など について記載)

定性的な成果 (取組を進めたこと を設ける等の取組を実施しました。

指標等の 成果分析

を阻む<u>外的要因等</u> を含めて記載)

成果分析 (指標の目標値達成 度の新中原図書館設立当初の混雑が年々落ち着いてきたことも影響していると思われます。

| | ※1 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 現状値以上~目標値未満、c. 目標達成率60%以上~現状値未満、d. 目標達成率60%未満】 | ※2 指標達成度の目安【 a. 目標値以上(100%以上)、b. 個別設定値(「指標の説明」欄に記載)以上~目標値未満、c. 目標達成率60%以上~個別設定値未満、d. 目標達成率60%未満】

3	施策を構成す	る主	な事務事業の評価						
					事業費	(千円)	事業の		
番	事務事業コード	サービ	事務事業の概要		予算額	決算額	達成度	施策へ	
号	事務事業名	ス分類		主な取組の実績	H27年度 H28年度(※決算額は見込) H29年度		見込)	の貢献 度	事業の方向性
	20302010		市民の学習や活動の支援、社会教育に係る団体やボランティアの育成、市民のネッ	■さまさまな子首の場の徒供による、□氏の「子ふ刀」の育成	43,581	40,864			
1	社会教育振興事業	参加・協 働の場	トワークづくりなどを行うとともに、学習の 成果や地域の人材資源の活用を図り、市 民の力による地域の教育力とまちづくり力	●市民が学びにより得た知識や経験等を身近な地域で活かす市民講師の養成・活用 ●市民提案・協働による課題解決型事業の推進、地域の生涯	46,705	42,525	3	A 貢献して いる	I 現状のま ま継続
			の向上を図ります。	学習をコーディネートする人材の育成	46,395				
	20302020		市民が読書に親しむ機能に加えて、地域	●多様な市民ニーズに応えるための資料の充実・タイトル数の 確保	719,042	675,577		_	
2	図書館運営事業		情報や生活情報など、さまざまな分野で市 民が必要とする資料や情報の提供・発信	●課題解決に役立つ地域資料等の広範な資料収集・提供 ●ICTを活用した効率的な図書館の運営管理	702,310	676,746	3	B やや貢献 している	I 現状のま ま継続
	囚官班是巴辛未		を行います。	●図書館総合システムの円滑な運用 ●来館困難者や視聴障害等への支援サービスの充実	712,906				0442496
	20302030			●幸市民館の改修工事 ●市民館・図書館等における、民間活力の活用を含めた管理運	268,102	225,617			
3	生涯学習施設の環境	参加・協 働の場	市民の生涯学習や地域活動の拠点として 生涯学習の環境整備に取り組みます。	営体制の検討 ●学校施設の有効活用や学校施設を活用した生涯学習事業の	679,744	631,190	3	A 貢献して いる	I 現状のま ま継続
	整備事業			実施 ●教育文化会館の今後のあり方の検討	935,147				S- NE-IN
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
]	

4 施策の進捗状況					
	区分	選択区分	進捗状況区分を選択した理由		
進捗状況(指標等の成果を中 心に施策を構成す る事務事業の評価 等から総合的に評	A. 順間に推移 (目標達成している) B. 一定の進捗がある (目標達成に向けて進捗している) C. 進捗は遅れている (目標達成が遅れる可能性がある) D. 進捗は大幅に遅れている (目標達成が難しい可能性がある)	D	●社会状況や市民ニーズを捉えた事業実施に努め、市民館事業においては「新たなつながり」増加にもつながっているところです。 ●成果指標は目標値を達成できない項目もありますが、配下の事務事業の取組は、概ね掲げた目標どおりに進捗しています。		

	区分	選択区分	「事業構成の妥当性を選択した理由」及び「今後の方向性」
今後の 事業構成の 妥当性 (<u>手段は妥当か?</u>)	I. 効果的な事業構成である (現状のまま継続する) Ⅲ. 概ね効果的な構成である (一部見直し等の余地がある) Ⅲ. あまり効果的な事業構成でない (見直し等の余地が大きい) IV. 事業構成に問題がある (抜本的な見直し等が必要である)	I	●市民が自ら学び、活動するための支援として、引き続き生涯学習環境の整備に努めてい く必要があります。